



Report 3 地域の宝を火災から守る 文化財防火デー 各地で防災訓練

「第60回文化財防火デー（1月26日）」に伴う火災想定訓練が1月21日～2月2日の間、市内各地で実施されました。

「文化財防火デー」は昭和24年に国宝「法隆寺金堂」の壁画が焼損したことを機に定められたもので、この日を中心に文化財を災害から守るため、全国的に文化財の防火運動が展開されています。

本年度は、国重要文化財「堀江家住宅」（高野町）ほか6カ所で訓練が行われ、地域住民によるバケツリレーや消火器による初期消火、地元消防団との連携による消火活動などが行われました。

参加者は「訓練をすることで防災意識が高まり、貴重な体験となった」と話していました。



▲大雪の中での放水訓練（堀江家住宅）

Report 4 地元野菜の良さを知り子育てを 西城保育所で子育て講演会

「子育て講演会」が1月29日、西城保育所で行われ、約60人が参加しました。

今回は、西城産野菜の良さを知ってもらい、子育てに生かしてほしいという思いから、若い世代の保護者を対象に開催されました。



▲試食したメニューの説明を受ける参加者

講師の野菜ソムリエ加藤寛子さんが「地場の野菜で食べる意欲を育てよう」と題し、西城を代表する4食材のイチゴ・トマト・ヒバゴンネギ・ヒバゴンの寒じめほうれん草を例に、旬や特徴、食べ合わせや調理法を紹介。あわせて、西城と八針自治振興区が取り組んでいる野菜を活用した取り組みが紹介されました。

加藤さんは「野菜の旬や栄養素などの特徴を知ること、発育に必要な栄養をよりおいしく、より効果的にとるために、“なんとなく食べる”のではなく、“分かって食べる”ことが大切」と話していました。

また、西城産野菜のおいしさを実感してもらおうと、料理研究グループ「サムデイシェフ」による寒じめほうれん草を使ったシフォンケーキと、給食調理員によるポタージュスープの試食も行われました。

岡田美智子保育所長は「西城産野菜の良さを改めて実感できた。子どものためにもぜひ家庭でも試してほしい」と話していました。

Report 5 元スキー場に子どもたちの歓声響く 口和でスノーフェスタ

宮内自治会などが主催する「スノーフェスタ in 口和」が1月26日、金尾原元スキー場で開催され、市内外から家族連れなど約170人が参加しました。

当日は、かまくら作りやそりすべりジャンプ大会、雪中宝探しなど、雪を楽しむイベントが盛りだくさん。ジャンプの距離を競うそりすべりジャンプ大会では、子どもたちが大ジャンプを狙って果敢に挑戦。なかなかうまく飛ばずに転倒しても、歓声を上げながら繰り返しチャレンジしていました。

昼食には、イノシシ肉がたっぷり入ったうどんやおでん、おやつタイムにはみんなでついた餅を使ったぜんざいが振る舞われました。

宮野克己実行委員長は「今年も市外から多くの参加をいただいた。毎年楽しみにされている家族もいるので今後も続けていきたい」と話していました。



▲みんなで餅つき

市内のイベントやまちの話題をお届けします。
身近でホットな情報をお寄せください。
情報政策課広報広聴係
☎0824-73-1159 / Fax0824-72-3322

Report 1 雪上で熱く燃えた2日間 広島県雪合戦大会・鍋&漬物グランプリ

「第17回広島県雪合戦大会」が2月1日・2日、高野スポーツ広場で開催され、県内外から83チームが参加しました。

今年は松江自動車道の開通により交通アクセスが良くなったことに加え、大会前的高温続きによる路面状況の良さと、大会中の天候にも恵まれ、選手や観客など合わせて約6,000人を超える来場者で試合会場、イベント会場ともに終日にぎわいました。

第1回大会から出場し、メンバー全員が今年還暦を迎える「人生折り返しチーム」の突然の引退宣言に会場が沸いた選手宣誓で幕を開けた大会は、白銀のコートで、雪球を投げる、かわす、相手チームのフラッグを奪い合う白熱した試合が続きました。

また、2月2日に同じ会場内で開催された「第4回鍋&漬物グランプリ」には今年も開始時刻前から長蛇の列ができ、雪合戦大会に負けない盛り上がりを見せました。

市内外から9団体が出店した鍋グランプリは、口和町産・瀬戸もみじ豚、高野大根と白菜、大崎上島レモンなどを材料にした「道の駅たかの」の「ほかほかすべすべ☆レモン鍋」が、「お茶に合う漬物」をテーマに漬物名人自慢の漬物24品が出品された漬物グランプリは、昨年に続き出口富子さん（高野町）の「ハリハリ大根のしょうゆ漬け」がグランプリを獲得しました。



▲宣誓する藤原祐博さん



▲漬物グランプリの様子



▲ホイッスルで試合開始！

Report 2 地域福祉の課題を地域みんなで考える 総領地域の支えあいづくりを考えるつどい

地域福祉の課題の共有と、その課題をどう解決していくかを考える「総領地域の支えあいづくりを考えるつどい」が1月25日、総領自治振興センターで開催され、約50人が参加しました。

まず、山内自治振興区の地域マネージャー三上智道さんが、現在取り組んでいる実践例を話し、地域福祉の課題を解決するためには、「自治会や民生委員、老人会などが互いに連携し情報を共有することが大切」と語りました。

また、「総領町に思うこと」と題して県立広島大学3年の角光平さんと、総領中学校2年の池口大輝くん、池田葵さん、横屋操さんの3人が意見を発表。

角さんは「総領町は四季を通じて自然と触れ合え、

世代交流があり笑顔があふれる町」と話す一方で、「過疎化はこれからも進み、交通や就職、住居などの問題への対策が必要」と話していました。

総領自治振興区の山根京司区長は「今回の話を参考に、これから取り組んでいくおたがいさまネットなどの事業を進めていきたい」と話していました。



▲三上さん

▲角さん

Report 6

世界に一つだけの卒業記念品 比和小学校6年生が篆刻づくりに挑戦

卒業の記念に思い出の品をつくろうと1月27日、比和小学校6年生9人が篆刻づくりに挑戦しました。

篆刻とは印材に文字を彫り、自分の描いた絵などにサインの代わりに押す印鑑のことです。この日は、ろう石に似た軟らかい石に自分の名前から1～2文字を選び、彫り込みました。

作製した篆刻は、卒業式にも披露するとあってやる気も十分。地元の書道講師・谷口直美さんの指導の元、試し押しをしては彫り直す作業を繰り返し、縦横約2センチのオリジナル篆刻を完成させました。

作業終了後、児童は「想像していたより難しかったけど楽しかった」、「それぞれデザインが違う世界に一つだけの篆刻ができたので良かった」と、満足げに互いの篆刻を見比べていました。



▲篆刻づくりに励む児童

Report 7

高野の雪で交流を深める 高野小と木江小が交流会



▲そりレースを楽しむ児童たち

高野小学校と大崎上島町の木江小学校による冬の交流会が1月30日・31日の2日間、高野小学校や大鬼谷オートキャンプ場などで行われました。

今回は高野小学校の5・6年生32人と木江小学校の5・6年生15人が参加。

初日は時折雨が降るなどあいにくの天気でしたが、2日間にわたり、雪中大根掘りやスポーツ雪合戦、そりレースと冬の高野ならではの雪遊びを通して交流を深めました。

また今回は、初めて農家民泊による受け入れを実施し、5班に分かれた木江小の児童は、それぞれの家庭でのおもてなしを受け一晩を過ごしました。

高野小学校の重光登校長は「“おもてなしの倍返し!”を合言葉に、児童自らが取り組み交流を深めることができました。夏の木江での交流も楽しみです」と話していました。

Report 8

三楽荘で奉納神楽を楽しむ 東城まちなみ保存振興会が立春神楽を開催

地域の安泰と発展、無病息災、五穀豊穡を願う神楽の奉納が2月16日、庄原市三楽荘で行われ、地域内外から神楽ファンなど約100人が訪れました。

立春神楽と銘打ち開かれたこの催しは、比婆荒神神社が国重要無形民俗文化財「比婆荒神神楽」を披露。来場者は華麗な舞、太鼓、神楽独特の言葉の掛け合いなど、目の前で演じられる伝統神楽をかぶりつくように鑑賞していました。



◀▲オロチを退治する須佐之男命（スサノオノミコト）に客席席く